

潮来市の誇れる自然

水郷の魚たち ―ウツセミカジカ

第72回

GW終盤、水を混えた田んぼでイネが生育しはじめ、水郷らしい景観がひろがりです。田んぼでは小魚や水生昆虫、アマガエル、水鳥などもぎやかです。田んぼに供給される水の多くは霞ヶ浦から汲み上げられていますので、これらの生きものの暮らしも霞ヶ浦の水資源に依存しているといえます。このような農業用水のみならず生活・工業用水の安定的な確保のため、1960年代に霞ヶ浦の出口付近に常陸川水門（逆水門）という堰が設置されました。霞ヶ浦の水がめ化のはじまりです。

霞ヶ浦の水がめ化によって人の生活は豊かになりましたが、海域や河口域から遡上する魚たちが減っていく現象も起きました。その代表がウナギです。子どものシラスウナギは逆水門を越えられず、その上流側ではほぼ採れません。同じような理由で減ってしまったのが、絶滅危惧種のウツセミカジカ（写真1）です。かつては4〜5月に霞ヶ浦の下流側の利根川で稚魚がよく見られ、霞ヶ浦にも生息していましたが、逆水門の閉鎖以降はほぼ消失しました。

ウツセミカジカは本州と四国の太平洋側の河川中・下流域のほか琵琶湖に局所的に生息しており、子どもの頃に命がけの旅をします。河川の石の下で卵からふ化した後に流下し、海で約1か月間の浮遊生活を送った後、稚魚（写真2）になると河川を遡上するのです。ところが稚魚の大半が農業用取水堰（写真3・田んぼへの水供給のため水を堰き止める構造）に行く手を阻まれてゴールにたどり着けない実態が、県央部の河川での私たちの調査で判明しました。お米の生産を続けながらどのように本種を守っていくか、堰の運用や魚道の改良に解決策のヒントがあるだろうと考えているところです。

茨城大学水圏環境フィールド

ステーション魚類学研究室

柏谷 翔大・木村 将士・加納 光樹



写真1：ウツセミカジカの成魚
茨城県内産（木村将士撮影）



写真2：ウツセミカジカの稚魚



写真3：農業用取水堰



春の地域安全運動



取組重点

- (1) 子ども、女性、高齢者及び障がい者の安全確保
- (2) ながら見守り活動の推進、防犯ボランティア活動の促進
- (3) ニセ電話詐欺、悪質商法の被害防止
- (4) 住宅侵入窃盗、自動車盗の被害防止
- (5) 暴力団排除活動の推進
- (6) 犯罪被害者等への支援に対する理解と協力

子供のSNSを使った犯罪被害が増えています

家族でスマホやタブレットを使うときのルールを決めましょう



ニセ電話詐欺にご注意を！ 還付金詐欺急増中



ATMで還付金手続きは全てウソ！

市役所等を名乗る電話で「お金が戻ります。ATMで手続きしてください」とATMを操作させようとする電話は詐欺です。



【お問合せ】 行方警察署 生活安全課 ☎0299-72-0110